

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:平成30年12月5日

事業所名 放課後等デイともだち

※管理者(児童指導員)はアンケートに参加せず

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○	庭を使う	児童発達支援センター設置基準よりは、はるかに広いがダイナミックな運動をするには狭い。
	2	職員の配置数は適切である		○		職員配置加算も受け、人員基準を大きく超えているが、支援員は多いとは思っていない。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○	車椅子の小学生、玄関は抱えている	既設の建物を借りているので、バリアフリーが難しい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画して		○		支援員等が全員揃わずに行っているが、事業所全体で取り組みたい
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		事業所で全部討議してコメントを出す	会報やインターネットで公表しているが、コメントが不十分だったため、評価しない支援員もいた。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		事業所で全部討議してコメントを出す	会報やインターネットで公表しているが、コメントが不十分だったため、評価しない支援員もいた。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者評価を行っていない。事業所側に偏った評価になり、社会的に信頼を得られる評価結果が期待できない
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			希望する研修には出しているが、納得のいく研修が少ない(未だ見いだせず)
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している		○		一応行っているが、これからは他の支援員も参画して児発管を支えたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		現在、学習中
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			今年度から全員で取り組み、試行錯誤中
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			こども達の状況を見て、こども達の総意を得て変更する
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			計画は具体化するために細かくしているが、まだ不十分と言う考えもある
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している		○		個別活動が続いたり、集団活動に偏ったりしている。これからはバランスを考えた計画にする
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			事前の打ち合わせは実施しているが、時間が十分ではない。工夫が必要だ
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		送りの職員がいて十分ではない。草原専従を置くか、勤務時間を検討したい
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている		○		記録の書き方は検討中。効率的に何を書くか、第三者が読んでも分かる書き方は?など
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している		○		モニタリングは行っているが、支援員の三角が不十分だった。いい支援が出来るように、また効率的に行えるようにもっと関与を強めたい。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している		○		ガイドラインに即した支援を考え実践しているが、もっと読み込んで理解して実施したい。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		○		今まで児発管だけが参画していたが、これからは担当支援員も参画する	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている		○		今まで下校時間の確認、送迎時の対応、学校行事情報など現実的問題には対応してきた。これからは事業所の計画や行事等も知らせ、情報共有を図りたい	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/	/	/	/	該当者なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○			放デイ利用前の保育園等からのアセスは必要だが、時間的制約があり十分ではない。これからは、児発管だけでなく、支援員も情報収集を行い相互理解を深めたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	/	/	/	/	該当者なし
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○			連携はできていない。それゆえ助言や研修なし。ただし聞いたことには答えてくれる
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○				法人内での学童クラブとは行っている。これからは、近隣の学童を行う。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○			案内が来れば参加しているが、新しい組織で、未だ活動方向が定まらず、活動が不活発
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○				保護者とは放デイ終了後自宅に送るとき話す機会がある。しかし合えない保護者も多い合えない保護者との共通理解をどうするか検討している。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○			こども自宅に送った時に、ちょっとした接遇は伝えられるが、やはり事業所での親子交流会等で伝えたい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている		○		支援員の説明は慣れないせいもあり十分ではないが、児発管が明快で分かりやすい説明を行っている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				子育ての悩み相談には誠意をもって答えている。しかし「必要な助言と支援」になるよう努力する必要があると感じている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			当事業所を会場とした地域の祭りに参加し、また夜の親子交流会を行い、保護者同士の連携を行っている。しかし、全員が参加できるように休日を利用した行事も行いたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○				保護者からの苦情には事業所の評価につながるので即座に対応している。しかし苦情件数は少ない。そこで苦情の掘り起こしを行い、信頼確保につなげたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				毎月2回の広報誌発行。内容は事業所の支援理念、こどもの活動、行事等。その他必要に応じ文書案内を行っている。
	35	個人情報に十分注意している	○				「個人情報取り扱い規定に基づき、事前に承諾を得た情報だけを利用している。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				利用者には親子ともに視覚障害や聴覚障害の人はいない。理解が困難な子どもには、絵や写真、ゼスチャーで意思疎通を図る。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		招くのではなく老人ホーム等に出かけている。	借家なので地域の人を招いて行うスペースはない。事業所を建設予定なのでそれを待ちたい。